

学力向上だより “継続と徹底”

第75号 R2.12.24 (木)

佐賀県教育庁教育振興課

令和2年度

全国学力・学習状況調査における佐賀県の質問紙調査の結果

今年度は、文部科学省による全国学力・学習状況調査が実施されませんでした。佐賀県では各学校及び児童生徒の学習状況等を把握し、学びの環境改善につなげるため、学校質問紙調査及び児童生徒質問紙調査を実施しました。佐賀県の質問紙調査の集計結果については、結果報告、集計データを各市町及び各学校に提供していますので、今後の学力向上に向けた取組の推進のために御活用ください。

- | | |
|------------|--|
| (1) 調査実施期間 | 学校質問紙（令和2年7月17日～8月31日）、児童生徒質問紙（令和2年7月17日～9月4日） |
| (2) 調査方式 | 悉皆調査方式（全数調査） |
| (3) 調査の対象 | 小学校6年生、義務教育学校前期課程6年生、特別支援学校小学部6年生
中学校3年生、義務教育学校後期課程3年生、特別支援学校中学部3年生 |

【児童生徒質問紙】

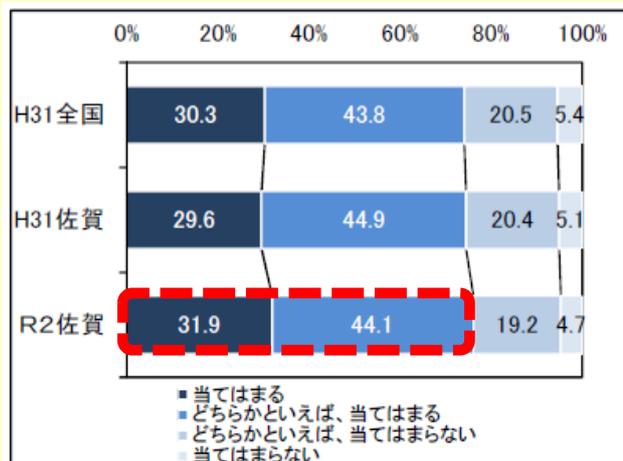
児童生徒質問紙調査の結果において、**よい傾向がみられた項目の一つ**です。

主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関すること

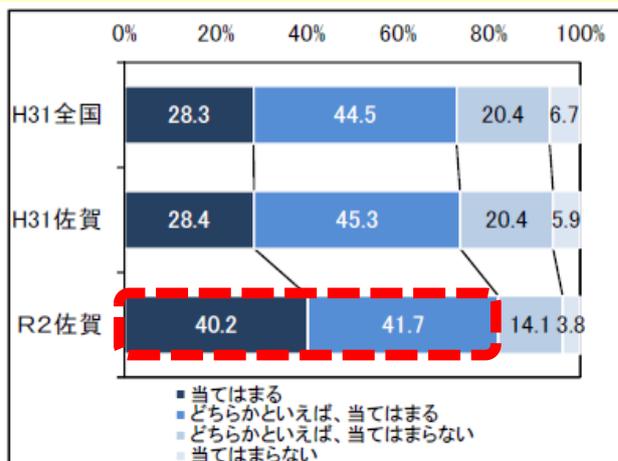
○ 学級の友達との間（生徒の間）で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか。

「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した児童生徒の割合で見ると、令和元年度（平成31年度）と比べて、小学校6年生は増加し、中学校3年生は大幅に増加しています。

《小学校6年生》



《中学校3年生》



「主体的・対話的で深い学び」を実現するために、教師が授業の中に話し合う活動を意図的・効果的に取り入れたことで、児童生徒の考えの深まりにつながってきています！



児童生徒質問紙調査の結果において、**課題がみられた項目の一つ**です。

自己肯定感に関すること

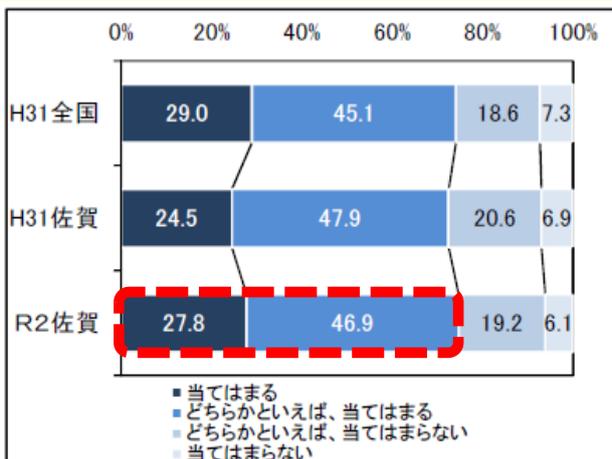
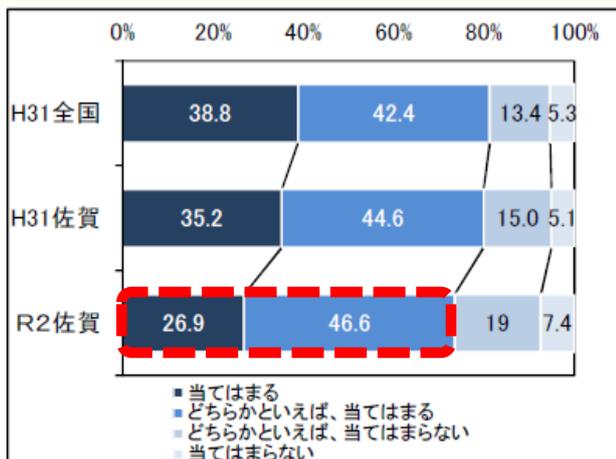
(※小学校と中学校の結果において、違いがある項目です。)

○ 自分にはよいところがあると思いますか。

「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した児童生徒の割合で見ると、令和元年度（平成31年度）と比べて、小学校6年生は大幅に減少し、中学校3年生は増加しています。

《小学校6年生》

《中学校3年生》



学校生活の中で、自己肯定感や自己有用感を高めるような場面をつくっていきましょう！



小中連携事業の公開授業 開催中！！

基山町立若基小学校：11月11日（水）

E-MAIL: wakaki-kiyama-e@education.saga.jp

比例の関係に目をつけて、グラフにないyの値を工夫して求める授業！

1 研究主題

【校区テーマ】 小中連携による、自ら学び続ける児童生徒の育成
～学ぶ楽しさを感じられる授業と家庭学習の充実～

2 公開授業の様子

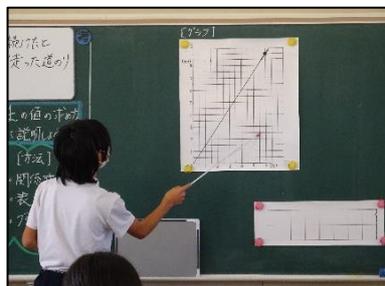


学 年：6年生 算数
指導者：江島 嵩瑛先生（T1）、宮原 ひろみ 先生（T2）
単元名：比例と反比例
めあて：比例の関係に目をつけて、グラフにないyの値の求め方を説明しよう。

比例していることをもとにして、グラフにないyの値を求めるときはどうしたらいいか説明しましょう。



グラフをのびして考える、関係式で求める、表を使って考える等の方法を使って、自力解決をしている様子です。



グラフを指し示しながら、自分の考えを全体に発表している様子です。

玄海みらい学園：11月13日（金）

E-MAIL: genkai-mirai-e@education.saga.jp

説明文を読んで、筆者の説明の工夫を考える授業！

1 研究主題

【校区テーマ】 できた喜びを感じ、自ら伸びていく子どもを育む、9年間を貫く学習スタイルの研究

2 公開授業の様子



学 年：3年生 国語

指導者：原田 キク子 先生

単元名：「すがたをかえる食べ物 book」をつくろう

（すがたをかえる大豆、食べ物のひみつを教えます）

めあて：「中」の段落の説明の順番について、筆者はどのようにくふうをしたのか考えよう

「中」の段落を読んで、筆者の分かりやすい説明の仕方のポイントを考えましょう。



自分で見つけた工夫についてグループで発表し、筆者の意図について話し合っている様子です。



筆者が考えた順番の良さや、読み手を引き付ける説明の工夫について、全体で発表している様子です。

有田町立有田小学校：11月13日（金）

E-MAIL : arita-e@education.saga.jp

説明文の文章を手がかりに、「しごと」と「つくり」についてまとめる授業！

1 研究主題

【校区テーマ】 小中連携による自ら学び続ける児童生徒の育成

【学校テーマ】 考えを伝え合い、広げ深めるための学習指導の工夫
～自ら学び続ける児童の育成を目指して～

2 公開授業の様子



学 年：1年生 国語

指導者：宮崎 慶太郎 先生

単元名：せつめいする文しょうをよもう（じどう車くらべ）

めあて：はしご車の「しごと」と「つくり」がわかるぶんしょうをかこう。

はしご車は、どのようなしごとをしていて、どんなつくりになっているか考えましょう。



はしご車は、どんな「しごと」や「つくり」になっているか友だちと話し合っている様子です。



はしご車の「つくり」を発表し、「しごと」と「つくり」が合っているかみんなで話し合っている様子です。

唐津市立西唐津小学校：11月19日（木）

E-MAIL : nishikaratsu-e@education.saga.jp

既習事項の学習をもとにして、平行四辺形の面積を求める授業！

1 研究主題

【校区テーマ】基礎学力を高める指導方法の研究
～主体的、対話的に学ぶ児童・生徒の育成を目指して～

2 公開授業の様子



学 年：5年生 算数
指導者：清水江美 先生（T1）、宮崎晶子 先生（T2）
単元名：いろいろな形の面積の求め方を知り、面積博士になろう
めあて：平行四辺形の面積を工夫して求めよう

これまでいろいろな形の面積を求める学習をしてきましたが、どのような工夫をして求めてきたかな。



自分の考えをグループの友だちに伝えたり、質問したりしている様子です。



グループの考えを全体に説明している様子です。

唐津市立西唐津中学校：11月20日（金）

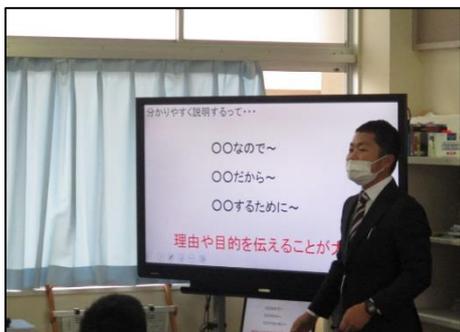
E-MAIL : nishikaratsu-j@education.saga.jp

2つの数量関係を比例として捉え、問題解決の方法を説明する授業！

1 研究主題

【校区テーマ】基礎学力を高める指導方法の研究
～主体的、対話的に学ぶ児童・生徒の育成を目指して～

2 公開授業の様子



学 年：1年生 数学
指導者：大西 勝文 先生
単元名：「4章 変化と対応」
めあて：5分後のAさん、Bさん、Cさんの離れた距離の求め方を、グラフを活用して考え、説明しよう。

距離の求め方を、グラフを活用して分かりやすく説明しよう！



個人で記述した説明をもとに、グループ活動でみんなに分かる説明を完成させている場面です。



各グループの意見を掲示し、グラフのどこに注目し、どのように求めたかを確認している場面です。

唐津市立大良小学校：11月20日（金）

E-MAIL：daira-e@education.saga.jp

文章の表現に着目して、根拠を示しながら題名を考える授業！

1 研究主題

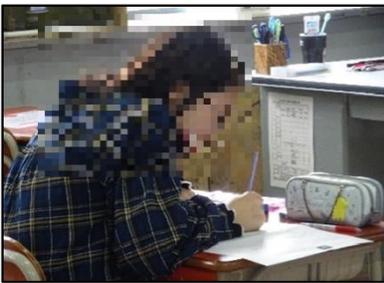
- 【校区テーマ】 高峰中校区の小中が連携した児童生徒の生きる力を育む指導法の研究
- 【学校テーマ】 自分の思いや考えをもち、他者との交流をもとに考えを深め・広げる児童の育成

2 公開授業の様子



学年： 6年生 国語
指導者： 稲富 崇志 先生
単元名： 宮沢賢治の作品の世界をとらえ、作品の紹介文を交流しよう「やまなし」
めあて： 二枚の幻灯の違いを捉え、それぞれの題名を考えよう

文章の表現に着目して根拠を示しながら、「五月」と「十二月」の二枚の幻灯に題名をつけましょう。



イメージマップをもとに、二枚の幻灯にそれぞれの題名を考えている様子です。



自分で考えた題名を根拠を示しながら発表し、全体で考えを共有している様子です。

唐津市立長松小学校：11月26日（木）

E-MAIL：nagamatsu-e@education.saga.jp

（小数）×（整数）の計算の仕方を考え、計算方法を説明する授業！

1 研究主題

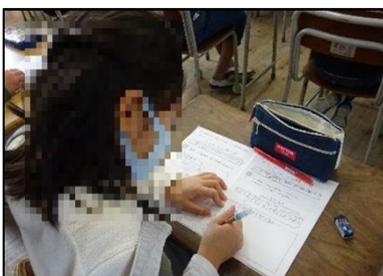
- 【校区テーマ】 学ぶ楽しさを実感させ、たくましく学び続ける児童生徒を育む指導
- 【学校テーマ】 3ラインの指導で学力向上を目指す授業設計
～振り返りを通して活用する力（見方・考え方、学び方）をつける算数科授業づくり～

2 公開授業の様子



学年： 4年生 算数
指導者： 兒坂 裕輔 先生
単元名： 小数のかけ算やわり算
めあて： 小数×整数の計算の仕方を説明しよう

前時の学習の考え方をもとに、 $2,3 \times 6$ はどのように計算したらよいか考えましょう。

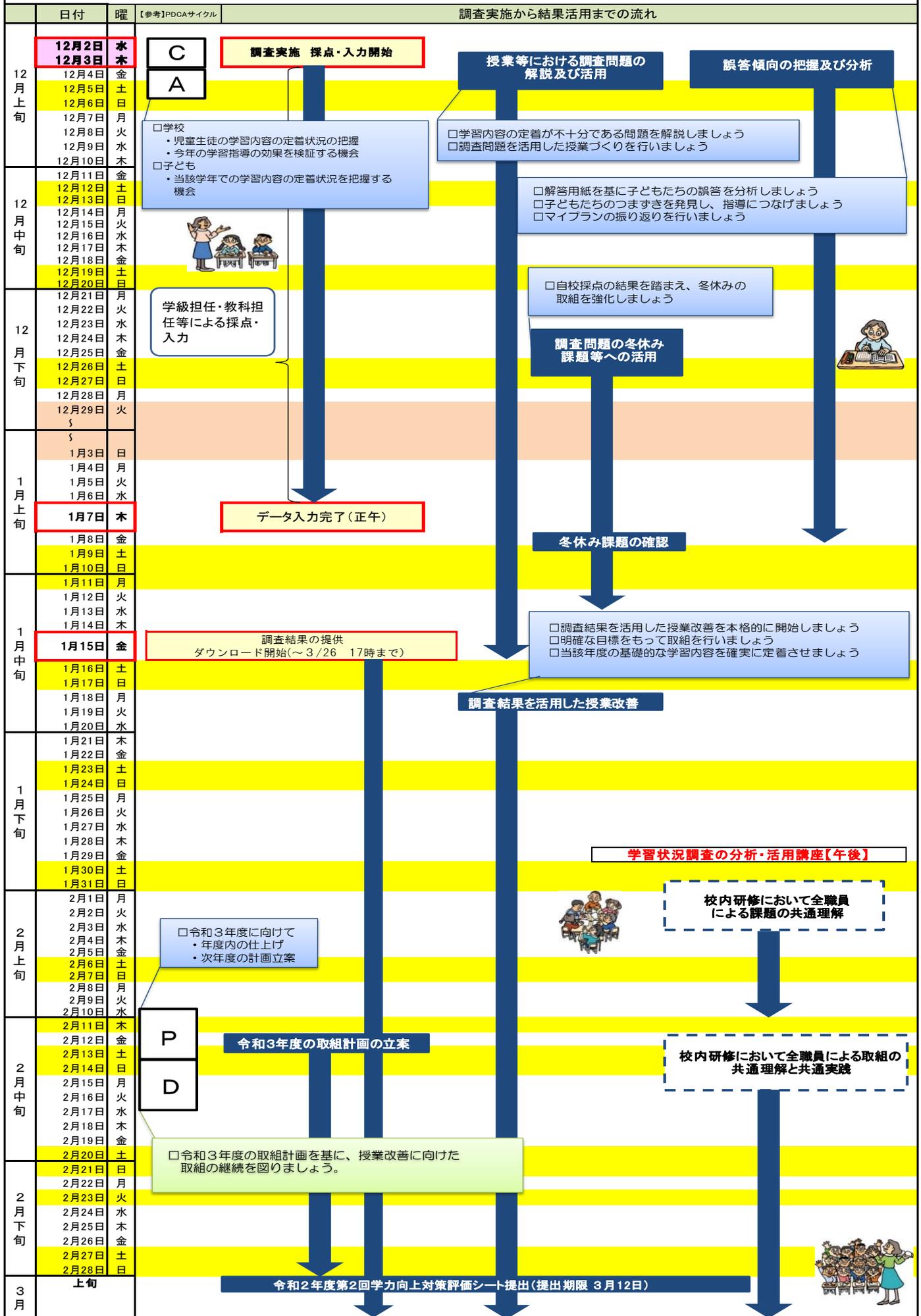


小数×整数の計算の仕方を考え、自分の考えをまとめている様子です。



グループで考えた説明の仕方を全体に発表している様子です。

令和2年度県調査の実施から結果活用までの流れ



※ 学校における学力向上のPDCAサイクルを意識しながら、課題解決に向けた取組の継続を図っていきましょう。